



臨時職員 募集

昭和六十二年二月に採用する、
村臨時職員を募集します。
●職種及び採用人数
一般事務(主として国土調査関
係事務)二八
●応募資格

お知らせ

山古志村に住所を有し、申し込
み時に年齢満四〇歳以下で健康
な人

●勤務場所
山古志村役場
●勤務時間
一週五日勤務で、午前八時三〇
分から午後五時一五分まで
●賃金
日給四、五〇〇円

献血にご協力ください

11月7日(月)
■村民会館
午前10時~12時
■山古志村農協本所
午後1時~3時

犬、ねこの引きとり

12月1日(木)	役 場	10:30~11:00
----------	-----	-------------

■手数料……1匹1,200円。子犬、子ねこは
10匹まで1,200円。
■引取方法……親犬、親ねこは麻袋等に。子犬、
子ねこは段ボール箱に入れ封を
する。印鑑をご持参ください。

●採用決定
書類選考により決定
●申し込み
十一月二十五日までに役場総務課
にお申し込みください。応募用
紙は総務課に用意してあります。

冬期間の ゴミ・し尿収集 変更のお知らせ

●不燃ゴミ
五月から毎月一〇日に収集を続
けてきた不燃ゴミは、十一月一〇
日の収集を最後に、それ以後は収
集いたしません。
なお、来年はまた雪消えと同時に
収集を始めます。一二月から四月
までは絶対に出さないようお願い
いたします。
●生ゴミ
冬期間も今までどおり収集いた
します。ただし、除雪路線でない
場所の収集箱は、除雪路線沿いに
移動します。
●し尿
冬期間も収集いたします。しか
し除雪しない道路沿いの家は早め
にお申し込みください。
小千谷の処理場が二月になる
と非常に収集が多くなり、処理能
力を超える場合があります。でき
るだけ「一月中」にお申し込み
ください。

出稼ぎをされる人は

国保・年金の手続きを お忘れなく

出稼ぎをされる人は、国民健康
保険や国民年金の手続きを、忘れ
ずに行ってください。
▼出稼ぎ先で引き続き
国保を利用するとき
出稼ぎ先の会社等に社会保険が
なかったり、短期間他の市町村に
滞在する場合は、「特被保険者証」
を発行します。出稼ぎなどに行く
前に申請してください。
▼社会保険に加入するとき
出稼ぎ先の会社等で社会保険に
加入する場合は、役場から「社会
保険加入及び脱退証明書」の用紙
をもらい、出稼ぎ先の会社から記
入してもらい、「加入証明書」を
役場に送ってください。また、
「年金手帳」も持参し、いっしょ
に加入年月日を記入してもらって
ください。
社会保険に加入する人は、手続
きを確実にし、保険料の二重払い
や資格の空白期間ができないよう
注意してください。出稼ぎに限ら
ず、社会保険に加入や脱退したと
きは、十四日以内に手続きをして
ください。
▼出稼ぎから帰ったら
「特被保険者証」は、すぐ役場に
お返しください。
社会保険に加入していた人は、
出稼ぎ先の会社から「脱退証明書」
をもらい、すぐ役場で手続きをし
てください。

停電のお知らせ

●期日 十一月二六日(水)
●時間 午前八時三〇分から
一三時まで
●地区 一竹沢地区全域

新潟県最低賃金

10月1日から
一日 三、六五三円
一時間 四五七円
(この最低賃金額は業種、業
務、パート、臨時雇を問わず
適用されます)



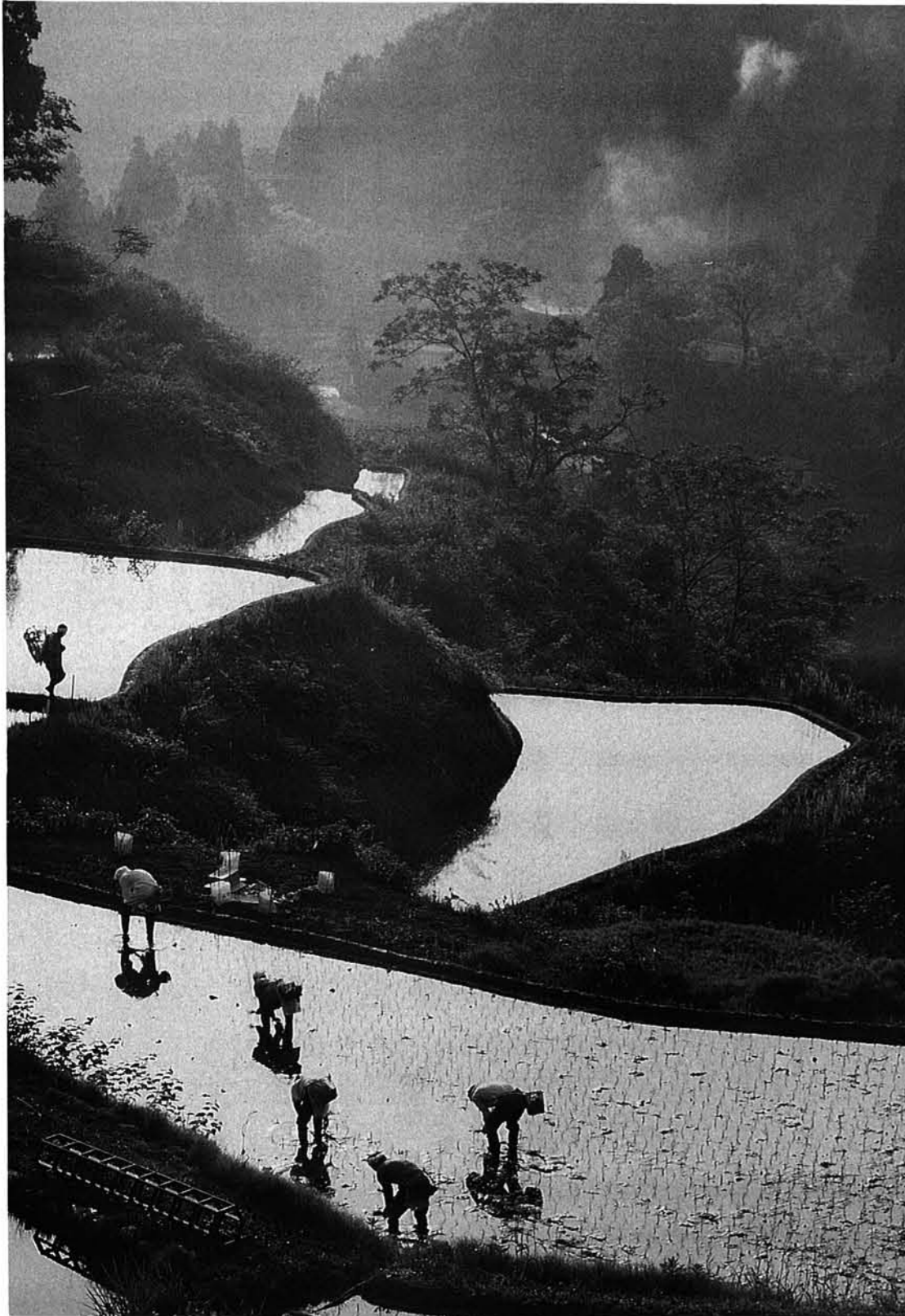
さざんか

「夕陽の田植」が村長賞

村、毎日新聞、日本報道写真連
盟の主催で、その他新潟県や各テ
レビ局・新聞社等の協賛・後援を
得て行われた「第一回四季の山古

志写真コンテスト」。九月に申し
込みが締め切られ審査の結果、長
岡市中条士郎さんの「夕陽の田植」
が山古志村長賞と決定されました。
応募数は三二八点と非常に多く、
県内から一九七点、県外から一二
一点の応募がありました。村内か
らは、星野哲さんと星野信さん高

橋武俊さんの三人が入選されてい
ます。入選は計四八点。
この写真コンテストは来年も行
われます。全国公募され、締切り
は昭和六四年九月一〇日(日)と
なっています。また、多数のご応
募をお待ちしています。





種苗奨励賞
広井利信さん



3部最優秀賞
五十嵐徳治さん

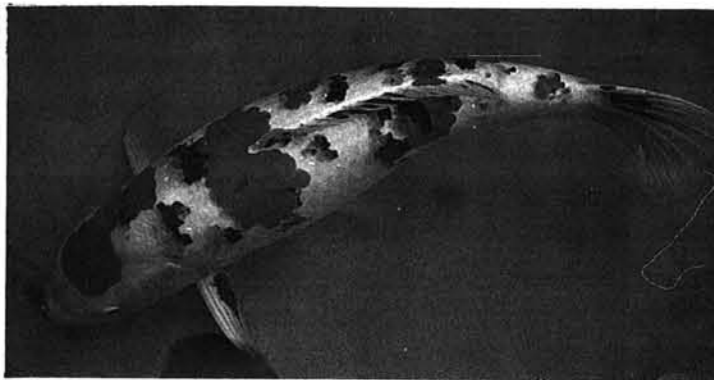


2部最優秀賞
佐藤清さん



1部最優秀賞
渡辺一治さん

〈変り物〉
一部渡辺一治(竹沢) 三部長島源佐(虫亀) 四部星野重行(竹沢) 五部星野重行(竹沢) 六部石原武(虫亀)
〈金銀鱗〉
一部長島弘(虫亀) 二部星野謙弥(竹沢) 三部青木毅(竹沢) 四部星野三男三(竹沢) 五部田中忠雄(虫亀) 六部田中重雄



▲容姿端麗と称された総合優勝の大正三色

三色・優勝 紅白・次席

青空の下で 盛会だった 錦鯉品評会



▲威風堂々と称された総合優勝次席の紅白

一〇月二七日(木)、素晴らしい晴天に恵まれた中、第二七回目を迎えた「山古志村総合錦鯉品評会」が錦鯉センターで開かれました。今年の村の錦鯉を総括するこの品評会は、やはり関係者の意気込みも違います。朝六時半という早い時間に集合した係員たちは、さつそく七時からの出品受付に備えます。そして七時から九時まで、次々と搬入される錦鯉を、計測、写真撮影、記録、水槽展示と各係員が連携プレーで捌き、四〇五点の出品を受け付けました。

(竹沢)の三色が選ばれ、この三色と優秀つげがたいということでも優勝次席に五十嵐千人さん(虫亀)の紅白が選ばれました。その後審査員は三班に分かれ各部の審査を分担し、逸品揃いのため苦勞しながら優勝四六点、準優勝八八点を運び出したようです。

表彰式は午後一時から。主催の漁協組合長の「関係者の協力奉仕により盛大な品評会が開催できました。感謝を申し上げます」とのあいさつがあり、来賓祝辞が続きました。そして、審査委員長(内水面水産試験場次長)から「さすがに産地山古志村の品評会です。総合優勝の三色は、容姿端麗。次席の紅白は、威風堂々。他の優勝鯉も大変な逸品揃いです。今年は銀鱗・昭和に特に優秀な鯉が認められました。これから越冬に注意し、来年はよりいっそう優秀な錦鯉を産出してください」との審査講評があり、入賞者の表彰が行われました。参加者多数の拍手の中、総合優勝から順に表彰され、副賞には網・桶など錦鯉生産者の七ツ道具ともいえる実用品が贈られていました。午後二時からは、この品評会に花を添える競売会が続けて開かれました。これは一部から四部までの入賞鯉が全て出品されるもので、厳しい審査を勝ち抜いた折り紙つきの優秀鯉ばかりです。競売会場



■総合優勝
大正三色 佐藤五郎治(竹沢)



◎一部最優秀賞
銀鱗紅白 渡辺一治(竹沢)

山古志村総合 錦鯉品評会優勝者 (敬称略)

内は鯉も見えないほどの人々が集まり、「三万/五万/一〇万」と威勢の良い声が飛び交っていました。八三品の出品で総売上げが約四五〇万円。産地山古志村として面目躍如の品評会が、晴天にも恵まれ盛会のうちに終了しました。

- ◎二部最優秀賞 紅白 佐藤清(虫亀)
- ◎三部最優秀賞 紅白 五十嵐徳治(虫亀)
- ◎四部最優秀賞 大正三色 金子昭治(虫亀)
- ◎ジャンボの部最優秀賞 大正三色五十嵐千人(虫亀)
- ◎種苗奨励賞(親鯉) 優勝 大正三色 広井利信(竹沢)
- 各部・品種別優勝(紅白)
一部金子隆(虫亀) 二部関喜美雄(東竹沢) 三部五十嵐弘(竹沢) 四部佐藤啓一(竹沢) 五部佐藤清(虫亀) 六部五十嵐千人(虫亀)
- 〈大正三色〉
一部石原平治(虫亀) 二部五十嵐幸作(虫亀) 三部星野秀雄(竹沢) 四部星野久市(竹沢) 五部星野武正(竹沢) 六部渡辺一治(竹沢)
- 〈昭和・写り物〉
一部川上幸治(東竹沢) 二部石原弥一(虫亀) 三部川上正吾(東竹沢) 四部長島弘(虫亀) 五部田中重雄(虫亀) 六部五十嵐千人(虫亀)
- 〈光り物〉
一部齊藤広栄(虫亀) 二部佐藤幸男(竹沢) 四部渡辺一治(竹沢) 五部松田松夫(虫亀) 六部星野武正(竹沢)

錦鯉は ゆうパックで お送りします

10月21日に発送式

郵便局がふるさと小包の宅配事業として行っている「ゆうパック」。これは全国の郵便局がネットワークとなり、各地の名産・特産を各家庭にお届けしようというものです。山古志特産の錦鯉も、郵便局の錦鯉パックとして、全国発送が開始されました。これは漁協青年部が半年位かけ計画を練ってきた、ようやくここで実現したものです。一〇月二二日には、漁協前で最初の発送ということで、盛大に発送式が行われました。参加したのは、漁協の青年部、郵便局、村等の関係者を主に付近の人たちや竹沢保育所の子供たちも見物に訪れました。この日発送されたのは約一五〇箱。五〇cm×二五cm×二五cm位の白地に錦鯉をあしらった段



▲発送式のテープカット



農林水産月間



▶荷作り風景

錦鯉パックの価格は六、一〇〇円(五尾入)と四、六〇〇円(二〇尾入)です。お申し込みは、各地郵便局に注文書があります。また、直接漁協青年部へご注文いただいてもけっこうです。(一九四七―)

〇二 新潟県山古志郡山古志村大字竹沢甲二七八山古志錦鯉養殖漁業協同組合・青年部 ☎〇二五八―一五九―二〇四四 手頃な価格で、良品質の鯉です。皆様もお知り合いの人などにおすすめてください。

講演会の ご案内

税制改革を 先取り

「税制改革のゆくと経済界への影響」と題した講演会が開かれます。多数おいでください。

納税は国民に課せられた義務です。今国会で盛んに論議されている消費税導入を骨子とした税制改革が近い将来国会で採決される可能性が強くなってきたようです。義務とはいえ、納税は直接・間接的に私たちの生活に大きな影響を及ぼします。税は仕方なく払うものと簡単に考えないで、この機会に勉強してみたいかがでしょうか。

主催は商工会。期日は一月七日(月)午後一時三〇分から三時三〇分まで。場所は村民会館です。講師は経済評論家の藤田勝也氏です。

- ・税制改革をめぐる政局動向
- ・税制改革の主なポイント
- ・消費税の概要とその仕組み
- ・税制改革に対する世論の動向
- ・税制改革の主な問題点
- ・長期的に見て税制改革はどうあるべきか

これらのことについての講演内容となる予定です。入場は無料です。

雨に泣いた秋

晴れ間を縫っての収穫作業 風雨の中で錦鯉の池揚げ

春から不順続きの天候でしたが、その影響で稲刈りも昨年より一週間遅れて始まったようでした。山古志村の秋は、稲の収穫と錦鯉一色といっても過言ではありません。

九月中旬ころから始まった稲刈りは、八月下旬からの雨がそのまま続き、田の乾く暇がないままの稲刈りとなりました。コンバインにしる、バインダーにしる田面が湿っているのは作業能率は極端に悪くなります。今年もコンバインが入らず、やむなく手刈りをした。自然乾燥が一番と高いはさで稲かけをする青木文博さん夫婦(池谷)



▶バインダーで稲刈りをする小川善一郎さん
うでしたが、秋になったら昨年と相変わらずだというような声も聞かれます。(次ページへ)



▲錦鯉の池揚げをする酒井俊幸さん(虫亀)10kgもある大きな鯉を手づかみで



▲はさの下で写生をしている虫亀小学校の子供たち
牛を飼っているからワラが大事です。と言いつつ稲あげをする上田寿さん夫婦(木籠)



こえました。それでも一〇月になるとこのイケスも色とりどりの泳ぐ宝石でいっぱいでした。人気

のあるのは小さい鯉で、大きい三歳四歳より当歳二歳の小さい鯉が良く売れるという話でした。一〇

月中旬から各地区で錦鯉の品評会や即売会が相次いで開かれ、県外からの車が多く見られました。一

〇月二七日には村の品評会が、二九〇日には県の品評会が開かれ、秋の錦鯉シーズンも終りにな

ります。その後錦鯉は、春まで長い越冬生活に入ります。



▶はさから稲を下ろしその場で脱穀する田中康博さんの奥さん(虫亀)



▲今年はずぶしちやってと稲刈りをする畔上金四郎さん(楢木)

▼晴れ間をぬって稲あげに忙しい田中忠昭さん夫婦(池谷)



11月はゆとり創造月間です

日本の課題です。労働と余暇のベストバランスノ

世界有数の経済大国となった日本に今一番求められていること、それは「今の生活を見直し、ゆとりある暮らしをめざす」ことではないでしょうか。十分に休養をとって心身をリフレッシュさせれば、

ゆとりと明日への活力が生まれ出されます。もはや、単に長い時間働けば良いという時代は終わりました。これからは、働くときは一生懸命に働き、休むときはゆとりあり、メリハリのある生活が大切になる時代です。働くこと、充実した余暇を楽しむこと。

そのベストバランスこそが、今の日本にとって、そして私たち自身にとって最も必要なことなのです。「毎年一月はゆとり創造月間です。皆さんもぜひこの機会に、ゆとりある生活とは何かについて考えてみませんか。」



さわやか君

西村 宗



食は新潟 豊かな緑

ナイスふ〜ど新潟'89

食と緑の博覧会

64年7月14日(金)~9月3日(日)
新潟産業センター周辺(新潟市藤木)
主催：新潟県食と緑の博覧会実行委員会

長岡地区安全運転競技大会で 種芋原チームが準優勝

長岡地区交通安全協会主催で九月二五日(日)に長岡運転免許試験場で行われた「第一六回安全運転競技大会」。各地区安全協会から多数の優秀ドライバーが参加し、安全運転技術を競いました。

各地区安全協会から、三人が一チームとなり、二七チーム・八一人が参加しました。この中から種芋原チーム(種芋富夫さん、種芋修一さん、小幡正夫さん)が、見事に準優勝の栄冠に輝きました。参加二七チーム中二位というのは、称賛に値する大変りっぱな成績です。また、個人成績でも種芋修一さんと小幡正夫さんが、銅賞を受賞しています。今後いっそう、模範ドライバーとしての活躍を期待いたします。

雨二毛負ケズニガンバツテ ニケチームが 優勝

竹沢郵便局長杯 ゲートボール大会

今年から創設された「竹沢郵便局長杯ゲートボール大会」でニケBチームが優勝しました。二位は同じニケAチーム、三位は虫亀チームでした。参加は九チーム。

当日は朝から曇天で時々雨のバラつくあいにくの天候でしたが、雨具用意の各チームのみなさんが熱戦を繰り広げ、楽しみながらの有意義な一日を過ごされたようです。



旅行記 竹沢老人クラブ 星野 仲次郎

県老連企画の「瀬戸大橋と倉敷・岡山の旅」をする機会を得ました。七月三日から三泊四日の日程で竹沢地区から一三人が参加し、総勢九六人の団体がバス二台に分乗しての旅でした。

一日目は全線開通して間もない北陸高速道から名神高速道を経て、京都の東山閣泊りでした。高速道路の車中から眺める親不知海岸付近は、観光名勝地として脚光を浴

びる所になると思いました。富山、石川、福井の三県にかけて、高速道路沿いに細長い小さい田の多いのに驚き、この点山古志村は数段恵まれているなと思ひ、我が村を見直しました。石山寺は天津市伽藍山の麓にあり、西国第一三番の札所で、聖徳太子がお伝えになった縁結び、安産、福徳の秘仏等を始め、紫式部が源氏物を執筆した「源氏の間」やその遺品が、国宝として残されています。

二日目は名神高速道から中国高速道を経て、岡山市の奥座敷吉田温泉泊りでした。岡山市の後楽園は、岡山藩主池田綱政の命により作られたもので水戸の階楽園、金沢の兼六園と共に日本三名園の一つに数えられています。岡山城を背景にした景観と、規模の大きさ、多彩な庭園美にうっとりとしたしました。倉敷美観地区は、白壁の土蔵・倉庫敷が緑美しい柳並木に映える、日本情緒漂う町です。大原美術館、倉敷考古館、民芸館等も有名です。

三日目はこの旅の本命である瀬戸大橋を見学し、高知港から東京行きの高速船「さんふらわあ号」泊りでした。夢のかけ橋瀬戸大橋は、着工から開通まで約一〇年、建設費一兆一、三三八億円、延労働人員八四〇万人、延長二一、三kmに及ぶ世界最長最大の道路鉄道併

とされている人です
融資額は、一進学者あたり一〇万円以内。
返済期間は五年以内。
利率は五・七%(変更あり)
返済方法は毎月元利均等返済です。
※詳細については、国民金融公庫長岡支店(☎三六一四三六〇)にお問い合わせください。

統計って何だろう？

統計調査は、大きなものでは国勢調査を筆頭に農業センサス、漁業センサスから商業統計調査、工業統計調査等多種の統計調査が行われます。そして、これら調査の行われるたび、みなさまにお手数をおかけしていることについては恐縮しておりますが、統計調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いいたします。

「統計というのは空気のようなものだ」といわれています。ふだんは、そのありがたさや効用が、顧みられることもありません。しかし、空気がなかったとしたら、そこそ人間は生きられないのです。同じように統計は、国や地方の政

治・行政にとって不可欠です。これを基に、教育をはじめ医療や福祉、経済、産業、社会資本など、私たちの暮らしを取り巻くすべての計画が組み立てられ、実施されていくわけです。

「国勢調査」のことを「センサス」といいますが、これは古代ローマ語で「人口調査」を意味しています。

※なお、調査した内容を他にもらしたり、また、統計を作る目的以外に利用することは、法律で固く禁じられておりますので、ご安心ください。

事業資金・ 進学資金は 国民金融公庫で

【事業資金】
普通貸付の融資額は三、五〇〇万円以内
特定設備資金は四、五〇〇万円以内

融資期間は◆運転資金五年以内
◆設備資金一〇年以内、◆特定設備資金二〇年以内。
利率五・七%。
【進学ローン】
ご利用いただける人は、高校大

学等に進学するための資金を必要

新潟雇用促進センターオープン ご利用ください

雇用促進事業団では、雇用に関する援助業務の拡充と組織の充実強化を図るため、雇用促進センターを一〇月一日から新潟市にオープンしました。

業務の主な内容は、次のとおりです。

■労働者の雇入れ、配置、職場への適応など、雇用管理についての相談・援助

■従業員・求職者等の職業能力の開発向上についての相談・援助

■建設労働者の雇用改善の相談・援助及び各種助成金の支給業務

■就職等により住居の移転を必要とする人に対する雇用促進住宅の入退去業務

■雇用促進融資の相談業務

※雇用促進センターでは、企業や労働者の皆様の良き相談相手になり、少しでもお役にたきたいと考

11月の
納税・保険料

★国民健康保険料(11月分)
★国民年金保険料(11月分)
★保育料(11月分)

新潟市万代四丁目一五六
新潟日産生命ビル五階
新潟雇用促進センター
(電話)一〇二五二四七五
(三三二)

11月18日は 土木の日です

「くらしと土木を考え、土木に対する関心を深めてもらう目的で、毎年十一月十八日を「土木の日」と定め、全国各地でシンポジウムや施設見学会などが開催されます。

土木という字を分解すると、土は十一に、木は十八になります。そこで十一月十八日が土木の日と定められました。

晴天に恵まれた旅でしたが、台風の影響で高知港出港がだいぶ遅れました。船内では食べる、飲む、寝る等、皆さん思い思いに過ごしておられたようです。立派なガイド・運転手・添乗員さんに恵まれ、事故もなく最高の旅でした。カメラ係の妻は六〇枚余りの思い出を残してくれました。ガイドさんが別れのあいさつで「良いお客さんに巡り会え四日間楽しく勤めさせていただきました。またお会いできるかどうか」と声をこぼしていました。旅の世界で人生の一つの縮図を見たようで感動いたしました。

(この記事は竹沢の星野仲次郎さんが旅行記として原稿をお寄せくださいましたのでご紹介しました)